

茨城県農産物販売推進東京本部情報

平成30年 10月

1 東京都中央卸売市場(平成30年1~9月)の青果物取扱高について

- ① 全体の入荷量は約138万 t で、前年比6%減、金額は約4,243億円で前年比1%増となった。
- ② 茨城県産の入荷量は約15.5万 t で、前年比5%減、金額は約434億円で前年比1%増となった。
(金額の内訳は、野菜約355億円、果実約79億円。前年同期比で野菜1%増、果実増減なし、平年同期比で野菜6%増、果実5%増)
金額が【増加】した品目(前年対比)：こまつな(125%)、みず菜(118%)、はくさい(112%)
金額が【減少】した品目(前年対比)：レタス類(85%)、れんこん(93%)
- ③ 茨城県の1~9月計の青果物入荷量は平年比2%減(シェア11.3%)、取扱金額は同6%増(シェア10.2%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1~9月計)			
	1~9月計	年間計	年間比	1~9月計	年間計	年間比	千葉	北海道	栃木	
数量	H30	1,379,492		155,469	←シェア(11.3%)		10.8%	9.5%	3.7%	
	H29	1,464,510	1,994,086	73.4	163,506	236,414	69.2	11.0%	10.2%	3.4%
	(前年比)	94			95	シェア(11.2%)				
	平年値※	1,460,995	2,003,485	72.9	158,457	228,865	69.2			
	(平年比)	94			98	シェア(10.8%)				
金額	H30	424,258		43,424	←シェア(10.2%)		7.9%	5.3%	6.0%	
	H29	418,394	570,141	73.4	42,935	60,168	71.4	8.0%	5.7%	5.8%
	(前年比)	101			101	シェア(10.3%)				
	平年値※	408,850	553,898	73.8	41,104	56,083	73.3			
	(平年比)	104			106	シェア(10.1%)				

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成25~29年の5ヵ年平均。

※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》

平成29年実績
(1~12月計)

茨城県：金額シェア(10.6%)、数量シェア(11.9%)
千葉県：金額シェア(8.0%)、数量シェア(10.9%)
北海道：金額シェア(5.9%)、数量シェア(11.6%)

2 東京都中央卸売市場(平成30年9月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

()内は前年対比

野菜類の入荷量は約7.8千トン(76%)、単価は417円(129%)、金額は約32.4億円(97%)
果実類の入荷量は約2.6千トン(104%)、単価は328円(96%)、金額は約8.6億円(99%)

※平年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の平成25~29年同月の5ヵ年平均値との比率

	品目	数量(t)			単価(円/kg)			金額(千円)				
		前年比%	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比			
野菜	ピーマン	848	91%	102%	103%	451	126%	112%	112%	382,434	114%	113%
	れんこん	788	96%	91%	89%	468	95%	99%	98%	368,387	91%	90%
	ミニトマト	480	119%	114%	112%	657	99%	104%	110%	315,434	117%	119%
	トマト	524	76%	68%	87%	440	122%	125%	125%	230,691	93%	85%
	野菜類計	7,780	76%	87%	91%	417	129%	111%	107%	3,244,639	97%	97%
果実	日本なし類	1,821	98%	97%	91%	268	105%	111%	111%	487,828	103%	108%
	果実類計	2,636	104%	95%	89%	328	96%	108%	123%	863,888	99%	103%

(野菜)

- ピーマン 7-8月は猛暑の影響で出荷量が前年・平年を下回ったが、9月上中旬は猛暑の影響から回復し、出荷量は平年を上回った。しかし、9月の曇天の影響で下旬は減少した。9月計では、出荷量が多かった前年を下回るものの、平年比102%となった。野菜入荷量の減少から相場高の影響もあり、単価は高めで推移し、販売金額も前年・平年を上回った。
- れんこん これまで数度の強風や猛暑の影響で生育や肥大にばらつきは見られるものの、概ね順調に生育している。9月は雨の影響もあり、出荷量は前年・平年を下回った。
- ミニト 大玉トマトからの転換で作付けが増えたことや、猛暑の影響が落ち着き出荷ピークの時期となったことから数量は増えた。最も入荷量の多い北海道は、7-8月は曇天の影響で出荷量が前年の70-80%台であったが、9月は97%と回復している。数量が多く前年より単価は下がったが、大玉トマトの入荷や野菜類全体の数量が少なかったことから、平年より単価は良く、販売金額も上昇した。

(果実類)

- 日本なし類 全国的に梨の出荷は1旬程度前進化し、本県も8月下旬から豊水の出荷が開始された結果、9月の出荷量は前年・平年を下回った。9月中旬までは気温も高く、量販店でも夏果実売り場が設けられ販売も比較的順調に進み、単価も平年を上回った。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績を基に算出